



AIYES 通信

横浜スペイン交流協会会報

1997年2月1日発行 第10号 発行・横浜スペイン交流協会事務局

★ さくら交流基金募集ディナーコンサート開催 ★

昨年末12月7日に、さくら交流基金募集のディナーコンサートが行われました。

駐日スペイン大使をはじめとして、多くの方々にご参加をいただき、楽しいひとときが過ぎていきました。

昨年12月7日、新横浜国際ホテル「楓の間」において、駐日スペイン大使サンチャゴ・サラス閣下をお迎えして『さくら交流基金募集ディナーコンサート』が催されました。新横浜国際ホテルの広い「楓の間」が満員になるほどの会員をはじめ、会員の知人や友人に参加していただきました。また、会場にはスペイン大使のほか、数人のスペイン人も見え、スペイン語と日本語の両国語が飛び交い、楽しい会話もはずみました。横浜市在住の浦井勝美氏が主宰する湘南ゾリスデンによる弦楽四重奏で、まずスペイン大使に対し敬意を表し、スペイン国歌を、つづいて室内楽の代表的曲としてモーツアルトの作品が演奏され、その後、浦井氏がこのディナーコンサートのためにとくに弦楽四重奏向けに変曲したというスペインの曲(アランフェス協奏曲、スペイン舞曲、チェゴイネルワイゼン等)が演奏されました。

また、『さくら交流基金募集ディナーコンサート』ということから「さくらさくら」など日本の曲も披露されました。湘南ゾリスデンの浦井氏がチェ



大使を囲んでクラベリートスを合唱

ロリストであることから、かつてスペインの世界的チェロの演奏家パブロ・カザルスが、ニューヨークの国連会議場で世界平和を願って演奏したカタロニア民謡の「鳥の歌」が浦井氏によって演奏されましたが、しみりとしたこの曲に参加者全員が平和のありがたさをかみしめました。第二部は宴会となりましたが、サンチャゴ・サラス大使もすっかり満足され、各テーブルをまわられ、参加者の皆さんとの撮影に応じられました。

最後に全員による「クラベリートス(カーネーション)」の合唱では、大使も舞台中央に上られ、学生時代を懐かしむかのように、熱唱されました。

そしてお帰りにあたって、「今宵は自宅に帰ったような気分です」とのコメントを残されました。

今回の『さくら交流基金募集ディナーコンサート』は全体的には大きな成功でしたが、会員の参加が少なかったことが残念でした。このことは、これからの会員のあり方に課題を残したといえましょう。

(石川 美知子)



湘南ゾリスデンによる演奏風景

“鳥の歌” — カザルスへの手紙

柳 貞子

ここに紹介する作品は、当協会顧問・柳貞子さんが、昨年東京都主催の『平和の日記念コンクール』・「平和への手紙」に応募し、優秀賞を受賞されたものです。カザルスの「鳥の歌」に想いを寄せて、平和を求める気持ちを歌に託す。そんな柳さんの姿が、ありありと浮かんでくるようです。

また、「鳥の歌」は昨年末のさくら交流ディナーコンサートでも、演奏されました。

この手紙は、この世ではもうお手もとにはとどきません。でも、この四月(1996.4)私は又仕事の打ち合わせのためにマドリードにまいります。その折、バルセロナにも立ち寄って、ベンドレルにあるマエストロのお墓にお参りし、このお手紙をさし上げたいと思って書きはじめました。

生前、マエストロは「大戦の前までは、日本が世界中で一番好きだった」とおっしゃったとのこと。戦後は大分たつての61年に日本にいらして、日本の愛弟子のデビュー公演の指揮をなさったことなど思い合わせれば、戦後の日本を再び好きでおられたことを信じます。その日本の、生前お会いすることなかった一人の歌い手が、どれほど心に深くマエストロの音楽と人間の偉大さに打たれ、心の師とさせて頂いているかを、そしてあの1971年の“鳥の歌”との出会いを、どれほど深く感謝しているかお伝えしたくて、ペンを取りました。いや、あなたの魂はもしかしたらもうずっと前から、私の歌う、“鳥の歌”をきいて下さっているかもわかりませんけれども…。あの時、1971年には、私はすでにスペインから帰っていたのですが、育児のために演奏活動を中断しておりました。体の弱かった子供のために、好きなスペインの歌も全く歌えないでいたある日、テレビで、ニューヨークの「国連デー・記念コンサート」の様子がうつし出されていました。映像の中で、はじめてお目にかかるマエストロのおっしゃった言葉、「私の故郷カタルーニャでは、鳥たちはピース(平和)、ピース、ピースと鳴きながら、空を飛んでいるのです」そして響いてきたチェロのゆったりとした、こ

よなく美しいメロディに私は打ちのめされ、ただただ涙を流しました。

「この美しいメロディにはきっと言葉があるに違いない。今は歌えないけど、きっといつかこの歌を歌おう」私はそれから3年の後に再びステージに立ち、更にその4年後に初めて、“鳥の歌”を歌い、今日まで歌い続けています。歌詞のどこにも平和を祈る言葉はなく、キリストの生誕を祝うクリスマスキャロルではありますが、マエストロのふるさとカタルーニャ地方にあるモンセラート修道院を訪れた時、一日中さえずっていた沢山の鳥たちの声が、本当にピース、ピースときこえたことを鮮明に思い出します。

思えば、昭和20年の3月10日と言えば、私が住んでいた荻窪の家のすぐそばまで空襲の炎が迫って、真っ赤な空を落ちていく B29を防空壕の中からこわごわ見上げていた末っ子の私がいました。そのすぐ後、病気の兄と、つきそう母と三人で、遠く父のふるさとに疎開し、終戦を迎えた次の年、病気が悪化した兄は、ついに永久に東京に帰ってくることが出来ませんでした。私たち一家は、あの3月10日を境に、もとの一家5人ではなくなったのです。この3月10日を東京都は「平和の日」といたしました。あの東京大空襲の日から敗戦へとまっしぐらに突っ走った日本でしたが、どれだけ多くの人たちがあの戦争の犠牲になったことか。その惨めさ、悲しさ、愚かさを忘れないために「平和を祈る日」になったのでしょうか。

今、日本はもう戦争はありません。しかし世界のあちこちで今なお、民族の争いが絶えることのないこの悲しい現実をどのように受け

とめたらよいのでしょうか。単一民族である日本では考えにくい民族の争いですが、愛する親や子供を殺されたら、やっぱりその殺した相手を殺したいと思うのではないかと思います。やり切れない気持ちになります。

音楽を通して平和と自由の大切さを訴え続け、あれほど愛した故郷カタルーニャに本当の自由がもどるまで、なんと40年の間帰らなかったマエストロの強靱な精神力はどこから出ているのでしょうか。それは深い人間への愛、音楽への愛である、としか言いようがありません。

マエストロ、どうぞ教えてください。今のこの世界の平和のあやうさを、私たちはどのようにしたら守っていけるのかを。マエストロ、あなたの身をもって示して下さい。平和への

メッセージが、これからの私の人間として、また音楽家としての強烈な確固たる指針となり得ます様に。何故か、日本人でありながらスペインを愛し、スペイン音楽にかかわった私が出会った最高のものが、もしかしたら“鳥の歌”かも知れません。

今の日本の平和を感謝して、平和のために私は何を成し得るかをいつも心に問い続けながら、これからもずっと“鳥の歌”を歌い続けるでしょう。

明け染めて 陽は輝き

虹色の空に 鳥は歌う

平和の歌 愛に満ち溢れ

(カタルーニャ民謡“鳥の歌” 作詞 柳 貞子)

委員会だより

Vol. 1 編集委員会

はじめまして。AIYES通信編集委員です。去年、年3回発行を目標に、会報編集委員一同がんばってきました。この号が今年度3回目の発行になるので、一応目標を達成した訳ですが、課題はまだ山積みです。会員の皆さんが気軽に参加できる紙面、スペインの情報をタイムリーにお届けする紙面、アイデアを1つ1つ形にしていけたらと思っています。

いつも、投稿してくださる会員の方々に、この場をかりて御礼申し上げます。まだ投稿したことのない会員の方も、ぜひ来年度は参加してください。感想文、詩、本やお店の紹介などなど、なんでも結構です。紙面についてのアイデア等もぜひ聞かせてください。お待ちしております。 中間 ゆきの



編集委員会メンバー（左より鈴木、飯塚、中間）および朝倉事務局長

スペイン*ミニミニ情報

§☆☆ カタルーニャ音楽祭のご案内 §☆☆

《バルセロナ・カタルーニャ・オーケストラ公演》

カタルーニャ音楽堂

San Francisco de Paula, 2, Barcelona.

Tel:93-2681000

- | | |
|---------|----------------------------|
| 2月 7~9日 | : ベートーベン、プロコフィエフ他 |
| 14~16日 | : バーンスタイン、トーマス他 |
| 22・23日 | : R.シュトラウス、マーラー、ハイドン他 |
| 28日 | : ストラヴィンスキー、ブルックナー他 |
| 3月 1~2日 | : " " |
| 7~9日 | : R.コルサコフ他 |
| 15・16日 | : プラームス他 |
| 4月 4~6日 | : バッハ、ワーグナー、メンデルスゾーン他 |
| 12・13日 | : ワーグナー、ブルックナー |
| 18~20日 | : ハイドン、モーツアルト、R.シュトラウス |
| 25~27日 | : ベルリオーズ、チャイコフスキー、メンデルスゾーン |
| 5月 2~4日 | : ラベル他 |
| 9~11日 | : ハイドン、モーツアルト、ファヤ他 |
| 16~18日 | : モーツアルト、ファヤ他 |

§☆☆ JALユーロエクスプレス新設 §☆☆

昨年10月より南スペイン、アンダルシア地方のセビリヤ、コルドバ、グラナダ、トレモリノスを回る日本語ガイド付定期バス「JALユーロエクスプレス」が発売されました。上記行程の一部区間のみの乗車も可能なため、個人旅行にも最適です。申込み、問い合わせは下記まで。

クリエイティブツアーズ(株) : (03)3406-7550
(06)271-1475

～.:～.:～ 大好評 スペインサロン ～.:～.:～

昨年は6月22日と10月12日および11月16日の3回、スペインサロンが開催されました。

6月22日のスペインサロンについては『AIYES 通信』第9号で紹介いたしましたとおり、協会顧問の神奈川大学教授石井陽一先生による『スペインとイスパノアメリカー経済の裏側』というものでした。

そして、10月12日のスペインサロンは、85歳を過ぎてなお現役のフラメンコダンサーでありつづける、日本フラメンコ協会名誉会長の香取希代子さんに『フラメンコに生きる』と題してお話をうかがいました。

また、11月16日には、スペイン現代史に造詣の深い、法政大学教授の川成洋先生に『スペイン内戦の今日性』というテーマでご講演をいただきました。そこでスペインサロンに参加された方々からの感想が、『AIYES 通信』編集部に寄せられましたので、ご紹介いたします。

第2回スペインサロン ☆ フラメンコに生きる ☆

香取先生におめにかかれた倅せ

西川 清子

友人、「明日フラメンコの素敵な先生の講演会があるの！」

私、「行く！」と返事。当日は一番乗り前列中央に席をとりました。

牡丹色のスーツ、上品なピンクのレースブラウス、少し汗しておいでになられた先生は一層お若くチャーミングな方で驚きました。

フラメンコについては全く無知な私です。先生の踊りに魅せられた人生の歩みを伺い、踊るためにお生まれになられた方だと思いました。フラメンコの歴史、表現の内容、カスタネットの種類や扱い、先生の手から、こぼれるような、やわらかな、その響き、天使のように軽やかな先生の踊りの御様子、私はフラメンコの大馳走をいただいた気分でした。本物の若さとは先生のような方だと思いました。ひと時お貸しした古扇子に添えられて先生の御著書を頂戴してしまいました。倅せな一日で、今も余韻、さめやらずです。



お元気な香取先生

第3回スペインサロン ☆ スペイン内戦の今日性 ☆ 奥の深い話に感動

寺原 瑛子

11月16日のスペインサロンは、法政大学教授川成洋先生の「スペイン内戦の今日性」と題しての講演でした。丁度この日岩波ホールで封切られた映画「大地と自由」(ケン・ローチ監督)をもとに、60年前スペインで勃発した内戦を分かりやすく解説していただきました。

この戦争は、単にファシズム対民主主義の戦いとして捉えられがちですが、実はさらに共和国内部に大きな問題がありました。主人公が義勇兵として参加するPOUM(トロキスト系)や、CNT(アナキスト系)、国際旅団(共産党系)という路線の違う団体が、次第に内部抗争を深め、ついに味方同志で市街戦を展開するまでに泥沼化していきます。世界55ヶ国から集まった義勇兵達が命をかけた反ファシズムの理想は無惨に挫折し、敗北していくのです。

さすがに奥の深いお話をうかがえて満たされた気分になった一日でした。参加者の大多数の人が、後日「大地と自由」を観に行き、感動したことと思います。



講演する川成先生

*** **

＜編集後記＞ だいぶ遅いですが…、あけましておめでとうございます。投稿・寄稿が増えて嬉しいです。今年も、AIYES通信をどうぞよろしく。

＜お詫び＞ 第9号でご紹介しました渡邊昭夫さんの「スペイン熟年二人旅」連載は、紙面の都合上、次号に掲載いたしますので、ご了承下さい。

*** **

* 投稿寄稿宛先 〒221 横浜市神奈川区鶴屋町 2-24-2 かながわ県民センター内
神奈川県民活動サポートセンター
レターケース No.184 横浜スペイン交流協会